

令和7年1月長浜市教育委員会定例会 会議録

I. 開催事項

1. 開催日時

令和7年1月24日（金） 午後1時30分～午後2時20分

2. 開催場所

教育委員会室（長浜市八幡東町632番地 長浜市役所5階）

3. 出席者

教育長	織田 恭淳
委員	前田 康一（教育長職務代理者）
委員	松宮 誠也
委員	兼子 貴絵
委員	前川 加奈子

4. 欠席者

委員	押谷 喜美子
----	--------

5. 出席事務局職員

教育部長	内藤 正晴
次長	山岡 万裕
次長	高山 義雄
管理監兼幼児課長	為永 智子
教育総務課長	藤田 いずみ
教育改革推進室長	成田 健
教育指導課長	馬淵 康至
すこやか教育推進課長	森 靖
教育センター所長	杉本 義明
教育総務課課長代理	野邊 誠
教育総務課係長	川瀬 奈津代
教育総務課主査	五十嵐 亮平

6. 傍聴者

なし

Ⅱ. 会議次第

1. 開 会

2. 議 事

日程第 1 会議録署名委員指名

日程第 2 会議録の承認

日程第 3 教育長の報告

日程第 4 議案審議

なし

日程第 5 協議・報告事項

なし

日程第 6 その他

3. 閉 会

Ⅲ. 議事の概要

1. 開 会

教育長から開会宣言があった。

2. 会議録署名委員指名

前田委員、松宮委員

3. 会議録の承認

12月定例会

特に指摘事項はなく、12月定例会の会議録は承認された。

4. 教育長の報告

教育長：

本日は令和7年最初の教育委員会定例会です。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

1点目について、1月6日民間園を含めた校園長会の中の年頭訓示において今年も引き続き同じ方向を向いてみんなで子どもたちをお預かりしようということと「教育環境づくり」

と「人間づくり」について、述べさせていただきました。

まず「教育環境づくり」について、これからの多様化社会で子どもたちが生きていくためには、学齢期を終えるまでに様々な経験や体験を持ち社会性を育てることが非常に重要であるため、これを校園の役割の一つとして捉えて多様性を認められる子、人権意識を持てる子に育ててほしいということ、また、小規模の校園においては子どもたちに社会性をどのように身に付けてもらうのか、これを共に考えていきたいと伝えました。学校園の統廃合については、令和8年4月に塩津小と永原小の統合が予定され木之本地区でも統合協議を進めています。1月12日に20歳のつどいに参加しましたが対象者が約1,150人、一方で今年度4月から12月に誕生したお子さんは約460人と聞いており激減しています。また、市の財政においては、長浜市民病院の経営状況の悪化によって大変厳しい予測がされています。これらの状況と適正規模配置検討委員会の中でいただいた様々なご意見を踏まえ令和7年度に「長浜市学校園の適正規模・適正配置に関する基本方針」としてお示しできるように進めていきたいと思えます。

つぎに「人間づくり」について、これからの多様化社会で子どもたちが生きていくためには、自律性・自主性は必須であり、人任せ・人のせいになっているようでは生き抜いていくことは難しいのかもしれない。戦前の物語、下村湖人の「次郎物語」の中で「指導者は青年たちに自分で考え自分で意見を闘わせ間違えを恐れずに自分たちの判断を生み出させることが必要であり、指導者は急いで結論を押しつけず青年が判断をした後にそれを指導するというのが本来ではないのか」という一節をお借りし、私たちが目指している子どもたち自らが考える授業、協働的な授業を引き続き学校園で進めてほしい、そして「人間づくり」の方向性をすべての校園で一致させて取り組んでほしいと述べさせていただきました。

2点目について、文部科学省が行いましたGIGAスクール構想の下での校務DXチェックリストに基づく自己点検（全国との比較）の速報を紹介させていただきます。長浜市は457.7ポイントということで、滋賀県下で一番の点数でした。教育委員会と学校ではICTを使った授業改善を進めていくために頑張っていますが、教育委員会と学校が共に同じ方向で進められている証明になったと思っています。

高評価の項目は4つございます。1つめは「クラウドサービスを用いた保護者、児童・生徒向けのアンケートや文書の配信」、2つめは「学習用端末（iPad）の家庭への持ち帰り」、3つめは「宿題でのクラウドサービス、デジタルドリル（キュービナ）の活用」、4つめは「職員会議、校内研究会、職員間連絡等でのクラウドサービスを活用した資料や情報の共有」、この4つが高評価でした。しかしながら、「教職員が作成した教材をクラウド上で共有し活用していますか。」という項目と「学校から教職員に紙で提出を求めているものはありますか。」についてはあまり点数が伸びていない。せっかく自分たちが持っている財産をうまく活用できてないなということを改めて認識しました。

学校現場の紙文化については、学校訪問で校長室へ通された際にでも、行事などの予定を自分でスケジュール帳に書くなりして管理している校長、一方で紙を10枚ほど貼って管理している校長それぞれ見受けられますので、学校全体に置き換えると個々の意識についてまだまだ改善できる余地があるなと感じています。

松宮委員：

クラウド上での教材の共有について、例えば、長浜小学校の教員が北部地域の学校の教員の教材を見ることは可能ですか。

教育改革推進室長：

授業支援ソフト（ロイロノート）を通じて見る事が可能です。

松宮委員：

アクセス数等のデータはありますか。

教育改革推進室長：

データは確認できていませんが、学校に対して活用をするように周知をしているところです。

前田委員：

教員文化においては、誰かを真似るというものをよしとしておらず、特に小学校の教員は独自で教材研究を進めていくことが根付いているので、活用が進んでいない状況になっていると思います。

教育長：

若手のうちは授業案を自分で考えて教材観を身に付けるなどと言っていますが、実際のところどうでしょうか。

前田委員：

若い教員はいくつかの教材を組み合わせで新しく構築するという力が乏しいため、そのまま鵜呑みにして写すという感じになってしまうと思います。学校訪問をさせていただくと指導案の目標の中で、正しく目標を捉えられていると感じるものはなかなか見ることができません。学校訪問資料は、校長や教頭先生が確認しているはずなのに何故指摘をしないのか。何々を元にして何々を考えさせるであるとか、何々ができるようにするというような形式になっていません。これで授業をするとどうなるのかは見るまでもありません。教授型の授業は目標も教授型になっている。そこははっきりしていると思います。

高山次長：

私が教育センターで研究していたときに感じたのは、インターネットに載っている指導案をコピペしているというものがたくさん見られるようになり、どうも安直にやろうという感覚は確かにあると思います。指導案を立てることで授業力は上がると思いますし、手を抜くべきところではないものが、働き方改革において軽視されていると私の自信の感覚としても思っているところです。

教育長：

長浜スタイルによってICTを使った授業改善の機運は高まったけれども、次のステップをどうするのか教育委員会で操縦していかなければならない。校長会でトップダウンをするだけではなく、教育委員会と管理職の教員で考える機会を作りたいと思います。

5. 議案審議

なし

6. 協議・報告事項

なし

7. その他

8. 閉会

教育長から閉会宣言があった。

会議録署名人

令和 年 月 日
